

ビーチボールバレー

宮崎市版ルール

(宮崎市スポーツ推進協議会監修/2014改訂)

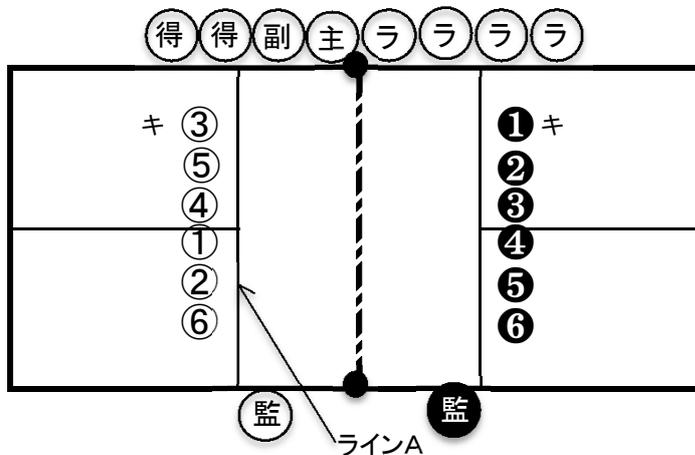
★注意・・・本ルールは、多くの方にスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康に楽しく交流を深めていただくことを目的として、レクリエーション性を重視したルールを採用しています。主旨をご理解いただきビーチボールバレーを楽しんでください。
より競技性を追求したルールでのプレーを希望の方は、日本ビーチボールバレー協会のルールを参照のうえ、別途お楽しみください。

■ 競技方法

- ・コートは、バドミントンダブルスコートを使用する。
- ・ネットは、ビーチボールバレー用またはバドミントン用を使用し、高さは180cmとする。
- ・ボールは、ビーチボール（直径約40cm、JBVA公認球）を使用する。
- ・得点は、ラリーポイント制、1セット15点3セットマッチとする。
※デュースは無し。15点先取とする。
- ・1チームの人数は、4～6人（大会の要項による）とし、全員でのローテーションとする。

■ 試合開始

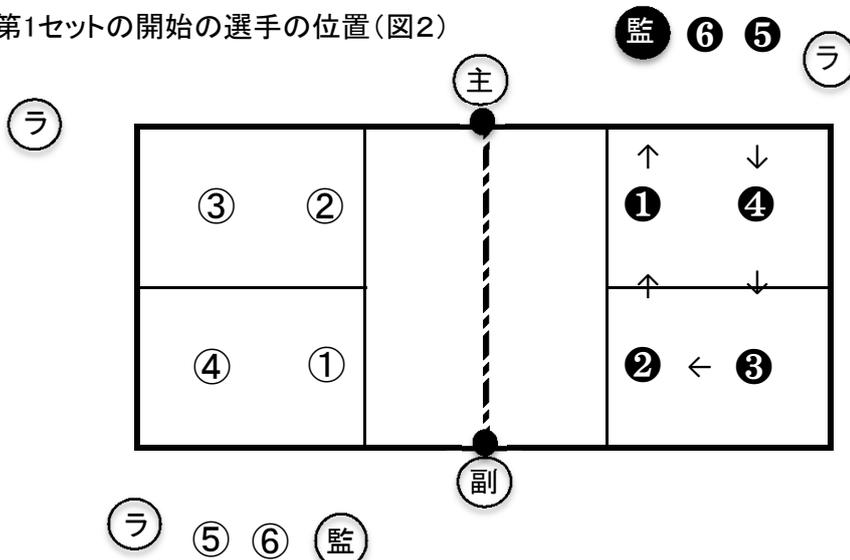
試合開始の整列(図1)



- ※ 公式な大会以外では、審判等の人数は臨機応変に行つて良い。
- ※ キャプテンは最も主審よりの位置に並んでおきましょう。
- ※ 公式の大会ではゼッケンをつけましょう。

- ・ラインAに沿って、ネットに向かって整列する。（特にゼッケン順に並ぶ必要は無い）
- ・主審の求めにより各チームのキャプテンは主審の前にネットを挟んで立ち挨拶をする。キャプテンはジャンケンを行い、勝ったチームがサーブ権又はコート権を選択する。コート権を得たチームは、どちらのコートを選択するか主審に申し出、了解を得る。（サーブ権を得たチームは、コートでの位置の選択をすることは出来ない。）
- ・キャプテンは元の位置に戻り、主審の合図により試合開始の挨拶をする。（審判→選手同士の順）続いて、各チームの選手はネット越しに握手をする。

第1セットの開始の選手の位置(図2)

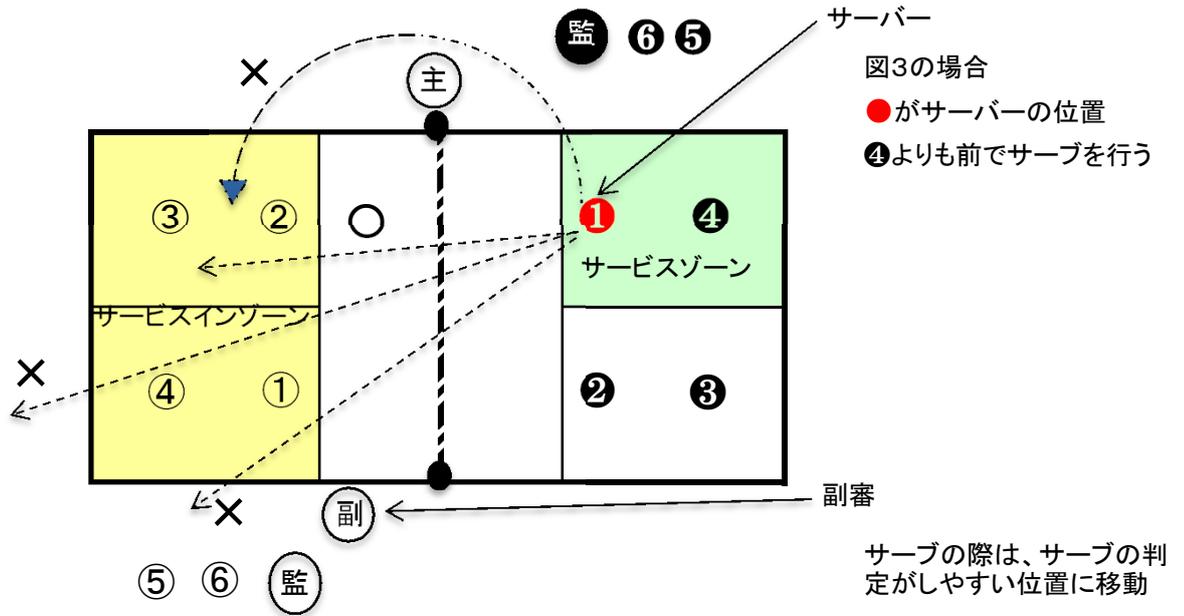


- ※ ローテーションは図の→の方向
- ※ ゼッケンがある場合は、この順にゼッケンをつけローテーションする。

※得点板の位置は会場の広さや設備等の都合で決定する。

■ インプレー

インプレーの時の位置(図3)



サーブ

- ・サーブはアンダーサーブとする。(緩やかな山なりのサーブとする。)
- ・アンダーサーブはボールを体の正面に構えて行う。(無理にトスを上げなくてもよい。)
- ・サーブ開始の吹笛の後、空振りをした場合はサーブの失敗となり、サーブ権が移行する。
- ・サーブは右前の位置に行う。(図3の場合①)
- ・サーブの順番(ローテーション)は時計回りとする。(原則としてゼッケンの順番に行う。)
- ・サーブは主審のホイッスルの後、5秒以内に行う。(5秒オーバーは反則)
- ・サービスゾーンの中ならどこから打っても良いが、後の位置にいる人より後方でサーブをしてはいけない。(前にいる人の後ろ足は、後ろにいる人の前足よりも前にならなければならない。)
- ・サーブは、サービスインゾーン以外の部分に落下したボールはアウト。また、ボールの外側を通過した場合は、サービスインゾーンに落下してもアウト。(ボールの延長線の内側を通過したものはセーフ)

サーブの時の注意

- ・山なりでない攻撃的なサーブを行った時は、主審が注意しやり直しさせる。(ただし、これが明らかに故意に続く場合は反則と見なす。)
- ・サーブ側、レシーブ側とも、前後左右の選手の位置(ローテーション)を代わってはいけない。位置を移動した場合は反則になる。サーブを打った直後は、前後左右どこに動いても構わない。前後左右の位置とは・・・サーブを打つ前の(両チームの)競技者の位置は、(図3の場合)①と④の位置の人はコート右側半分の範囲に、②と③の位置の人はコート左側半分の範囲にいないといけない。また④の位置の人は、①の位置の人より前には出てはいけない。同様に、③の位置の人は、②の位置の人より前には出てはいけない。前後の位置は、選手の両足の位置で判断する。(前の選手の両足は、後の選手の両足よりも前になくてはならない。)
- ・サーブの時は、ラインを踏んではいけない。(反則)
- ・サーブレシーブ側は、1打目で攻撃(アタックやブロック等)してはいけない。(反則)
- ・サーブ順(ローテーション)の間違いの場合の罰則
サーブ側が間違えた場合は、得点を1点減点し、サーブ権が移動する。(得点0の場合は原点無し)
レシーブ側が間違えた場合は、得点を1点減点。(得点0の場合は原点無し、相手得点は無し)

※ 本来のビーチボールバレーのルールでは、サーブの瞬間は全ての選手とも、足の位置を動かしてはいけないというルールがあるが、宮崎ルールでは採用しない。

■ チェンジコート

第2セットに入る時

- ・ 第1セット終了後は、主審の合図に従い、速やかにチェンジコートする。
- ・ チェンジコート後の選手の位置は、1セット目の終了時のままとする。
- ・ サーブ権は1セットの最後のサーブを行った反対のチームに与えられる。その際、サーブ権を得たチームは、ひとつローテーションを進めた位置で整列する。

第3セットに入る時

- ・ 第2セット終了し、セットカウント1対1のなった場合は3セット目に入る。その際、コート内の選手の位置は2セット目の終了のままとする。
- ・ 主審の求めにより各チームのキャプテンは主審の前にネットを挟んで立ち挨拶をする。キャプテンはジャンケンをし、勝ったチームがサーブ権を選択する。(コートの位置はそのまま) (サーブ権が2セット目終了側になった場合は、ひとつローテーションを進める。)(途中・・・いずれかチームが8点を先取した時点で、チェンジコートする。)

※ 原則としてセット間の休憩は取らない。

(ただし、気象条件等により主審の判断で休憩をとることも有る。)

■ イン・アウトの判定

- ・ ボールのイン (セーフ) アウトの判定は、ボールがラインに触れているかどうかで判断する。ボールがライン端にかかっていたらイン (セーフ) となる。



※判定はあくまでも人の目で見えるものであるため、審判の判定には真摯に従うこと。

■ 打球

- ・ 打球は、3回で相手コートに返す。その際同じ競技者が複数回ボールに触れることは出来ない。(3回目の打球がネットにかかった場合はその時点でオーバータイムス)
- ・ ブロックは禁止。(ブロックの姿勢でプレーしても相手コートに返らなければプレーは有効とする。ただし、1回のプレーとしてカウントする。)
- ・ プレーは、ウエスト (腰) から上の部分であれば、どこで打ってもかまわない。
- ・ ボールは同時であれば、2箇所以上の部分にあたってかまわない。ただし、静止 (ホールディング) してはいけない。
- ・ 1人の競技者が、2回連続 (同時以外で) でボールに触った場合、ドリブル (反則) になる。1度触れた直後に、ボールがネットの触れた後そのボールを同一競技者が触った場合もドリブルとなる。
- ・ 同じチームの2人以上の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回のプレーとし、どちらが続けてプレーしてもドリブルにはならない。
- ・ 後衛の選手は、サービスラインよりも前でジャンプしての攻撃は出来ない。

■ ネット上でのプレー

- ・ 相対する2人の競技者が同時にボールに触れた場合は、ボールが落下したチームの反対側のチームが最後に触れたものとする。ボールが入ったチームはその後2回で返球しなくてはならない。
- ・ 相対する2人の競技者が同時に反則 (ホールディング、タッチネット等) をした場合、ダブルファール (プレーのやり直し) になる。

■ 反則

- ・ **オーバータイムス**
同一チームで4回以上ボールに触れた場合。
 - ・ **ホールディング**
ボールを受け止めたり、ボールが体の一部で静止したとき。
 - ・ **フットボール**
ボールがウエスト（腰）よりも下に当たったとき。
 - ・ **ドリブル**
同一競技者が続けてボールに触れたとき。
 - ・ **タッチネット**
競技者がネット及びポールに触れたとき。
 - ・ **オーバーネット**
手などがネット上をこえて、相手のコートに出たとき。（ボールに触れていなくても不可）
微妙な判定については主審の判断に任せる。（完全にネットを越えるまでは攻撃側の優先）
 - ・ **インターフェア**
ネットの下から、相手コートに体が出たとき。（センターラインは踏んでもかまわないが、踏み越えてはいけない。）
- ※ 反則ではないが、スライディング等周囲のプレーヤーとの接触等危険を伴うプレーは極力行わない。

■ タイムアウトと選手交代

- ・ タイムアウトは各チーム1セットに1回取ることが出来る。（時間は20秒以内）
- ・ クツひもの締めなおしや競技者が負傷した場合等のタイムアウトは審判タイムとなり、チームのタイムアウトの回数には数えない。
- ・ 選手全員のローテーション制のため選手交代はない。
負傷等で退場の場合は残りの競技者でローテーションをつめて試合は続行する。ただし3名以下となった場合は失格とする。
- ・ タイムアウトは監督又は主将が審判に申し出ることが可能。タイムアウト中は競技者はコートを離れたり、監督以外の人と話すことは許されない。（コート内でタイムアウトを行うこと）

■ 審判について

- ・ 審判のジャッジスタイルは、ビーチボールバレーのジャッジスタイル（判定の後に得点側を指示する等）をすすめるが、これにこだわる必要は無い。
- ・ 相互にて審判を行う場合等も含めて、競技者は真摯に判定に従い、楽しくプレーすること。
- ・ 審判はルールに従い公平に判定しなくてはならないが、宮崎ルールの主旨に従い、初心者でも楽しくプレーできる様に配慮を忘れないこと。（いたずらに厳しく判定することが目的ではなく、楽しく競技できる様に、状況に応じては 審判の判断でやり直し等の配慮も可とする。）

宮崎市スポーツ推進委員より

- ★ 上記に記載したルールは、日本ビーチボールバレー協会のルールを参考に、生涯スポーツのひとつとして楽しんでもらう為に、レクリエーション性を重視してアレンジしたものです。多くの皆さんにスポーツに親しみ楽しんでいただくことが目的ですが、大会等で困らないようなルールづくりをしています。その主旨を理解し賛同していただく方の参画を期待しています。（競技性を追求し、この様なルールでは物足りない様な方は、別途別の主旨で行われる競技会等に参加されることをお勧めします。）
また、日常楽しんでいただく際には、更に独自に簡易なルールにして楽しんでいただいても良いです。
- ★ 審判にしろ、ルールに従い厳正に判定することが基本ですが、競技者が楽しくプレーできる様に配慮していただけると幸いです。ルールをまだ理解できていない方には優しく教えてあげたり、やり直しをしてあげる様なことも良いでしょう。また、難しく考えずに審判も楽しみながら皆さんで行っていただくと更に良いかと思えます。